会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（上町自治会）
2　日時	平成 30 年 8 月 18 日（土）19：00～20：00
3　場所	上町自治会館
4　出席者	（資源循環課）熊澤課長、小田副主査 （環境事業センター）安齋担当主査、加茂主任 （上町自治会）参加人数：19 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●１人１日当たりのごみ排出量が減少しているにも関わらずごみ処理経費が増加しているのはなぜか。 →27～29 年度にかけて焼却炉の大規模修繕を実施したため多額に費用が発生しており、市民１人当たりの経費が増加している。 ●茅ヶ崎市の１人当たりのごみ処理経費が国や神奈川県よりも多くかかっているのはなぜか。 →自治体の規模やごみ処理の方法、資源化の品目などでも経費が変わってくるため単純に比較することはできないが、比較の目安としてお示しさせていただいた。 ●戸別収集を仮に導入した場合には、集積場所での収集がなくなるため、多くの方が自治会を抜けてしまうと思われる。有料化や戸別収集を検討する前に、市はごみの減量化の周知徹底を更に行うべきであり、減量化を徹底し尽した上での検討なら理解できるが、現在は、周知不足が否めないため、この状況での検討は理解できない。 →全てを戸別収集の対象とするとは限らず、可燃ごみと不燃ごみのみを対象とした場合には、資源物は引き続き集積場所での収集となるため、全ての集積場所が不要になるというものでもない。なお、先行市が実施している有料化の対象は、燃やせるごみと燃やせないごみを対象とし資源物を無料としている。資源物を燃やせるごみで捨てると、有料となってしまうことで、市民の分別の意識が向上することが期待されるため、有料化は財源の確保だけでなく、ごみの減量化や資源化の促進に有効な施策であると考えている。 ●市が有料化や戸別収集について方針を示さないまま市民に説明を行うと、市民から様々な意見が出てしまう。先に方針を決定した上で、場を設けるべきであったと思う。 →今回の意見交換会の主旨は、市が抱えるごみ処理に関する課題を説明して、皆さんがその課題に対してどのように考えられるかということを意見としていただくために設けた場であるため、市としては、様々な意見をいただき、有料化と戸別収集の方針について決定したいと考えている。

	●分別が分かりにくいので、分別だけの説明会を実施してほしい。 ●リサイクルはコストがかかるためごみとして処理した方がよいのではないか。 →リサイクルについては、コストはかかるが、必要なことだと考えている。 ●戸別収集について、南湖は道路が狭くパッカー車が入れない道が多々あり、新たな車輌の確保など多額の経費がかかることが想定されるが、市としてどのように考えるか。 →現在、環境事業センターの職員が、戸別収集を導入した場合に係る経費の調査を実施している。具体的には、茅ヶ崎市の場合は狭隘道路が多いため、パッカー車が入れない道路については、軽トラックで入り、軽トラックも入れないような道路については、直接職員が歩いて取りに行くということを全域で調査しており、車輌や人員をどれくらい追加する必要があるのか等についてもシミュレーションしている。経費が分かり次第、皆さんには何らかの形でお示ししたいと考えている。 ●戸別収集で発生する経費の分を有料袋の単価に上乗せして徴収するのか。 →経費を上乗せすることは市民に過度の負担であるため、近隣の先行市町村とは、有料袋の単価については、それ程差は生じないと考えている。 ●平成 30 年度の市の当初予算編成で、３％しか環境部には予算が付いていないと説明があったが、それなら他の部の予算を削減し、その分を環境部に付けてもらうだけでよいのではないか。 ●戸別収集の場合には、カラス被害はないと説明があったが、それは戸別収集であっても袋に特殊な加工などしない限り被害にあうと思うがどのようなことか。 →先行市の事例の戸別収集の方法としては、公道と私有地の境界ぎりぎりの私有地側にごみをだしてもらい、各家庭がカラス被害にあわない様にポリバケツを置くなどして対策を実施している。自ら対策を実施しない場合にはカラスの被害にあってしまう。 ●有料化と戸別収集はセットで実施することを考えているのか。 →別の施策であり、セットで行うというものではない。 ●ペットボトルとビンはどのようにリサイクルされているのか。 →ペットボトルは、大半が各種成品原料、繊維製品、ペットボトルに再生利用されている。ビンはまたビンとして再生されている。 ●剪定枝が有料化の対象となった場合には、緑が減少してしまうのではないか。 →先行市では、剪定枝は有料化の対象とはしていない。また、剪定枝の資源化についても現在検討中であるため、有料化による緑の減少はないと考えている。

	以上